

コピーして使用する場合は、必ず裏面の約款も両面コピーしたものを使用してください。

提出用

# 〔貸与奨学金〕確認書兼個人情報情報の取扱いに関する同意書

〔大学院〕

(西暦) 年 月 日

独立行政法人

日本学生支援機構理事長 殿

私は、独立行政法人日本学生支援機構（以下「機構」という）の奨学金の貸与を受けるにあたり、インターネットによる奨学金の申込みの入力内容又は奨学金案内の記載内容及び以下に記載の貸与申込みの条件、個人情報情報の取扱いに関する各同意条項、機構の諸規程並びに裏面記載事項について、確認し、同意のうえ、返還することを確約し、本確認書兼個人情報情報の取扱いに関する同意書を提出します。また、機構に提出した個人番号については、裏面記載の範囲で機構が利用することに同意します。機関保証を受ける場合には、保証機関（公益財団法人日本国際教育支援協会）に支払うべき保証料は、機構が奨学金の交付の際にあらかじめ貸与金額から差し引いて支払うこととしてください。

\*必ず本人が記入してください。

学校名		学部・課程・分野	学科・専攻・研究科	学籍(学生証)番号
学校の種類	大学(学部)・大学院・短期大学 高等専門学校・専修学校専門課程	〒	電話番号(自宅) (携帯)	( ) ( )
フリガナ	現住所	生年月日	昭和・平成 年 月 日	性別(任意) 男・女
氏名	漢字	国籍又は在留資格 【該当を○で囲む】		
a 日本国籍 b 法定特別永住者 c 永住者 d 定住者(永住の意思がある者に限る) e 日本人の配偶者等 f 永住者の配偶者等 ※d～fの該当者は在留期限(在留期間の満了日)を記入( 年 月)				

## 【個人情報同意条項】 機構は、個人情報情報機関への登録及び利用は、延滞した場合のみ行います。

(個人情報情報の利用・登録等)

1. 私は、奨学金の返済が延滞した後は、下記の個人情報(その履歴を含む)が機構が加盟する個人情報情報機関に登録され、同機関及び同機関と提携する個人情報情報機関の加盟会員によって自己の与信取引上の判断(返済能力又は転居先の調査をいう。ただし、返済能力に関する情報については返済能力の調査の目的に限る)のために利用されることに同意します。また、私は、延滞した後は、機構が加盟する個人情報情報機関及び同機関と提携する個人情報情報機関に私の個人情報(当該各機関の加盟会員によって登録される契約内容、返済状況等の情報のほか、当該各機関によって登録される破産等の官報情報等を含む)が登録されている場合には、機構がそれを債権管理(転居先の調査を含む)のために利用することに同意します。

個人情報	登録期間
氏名、生年月日、性別、住所(郵便不届の有無等を含む)、電話番号、勤務先等の本人情報	下記の情報のいずれかが登録されている期間
貸与金額、貸与日、最終返済日等の本契約内容及びその返済状況(延滞、代位弁済、強制回収手続き、完済等の事実を含む)の情報	延滞発生から本契約期間中及び本契約終了日(完済していない場合は完済日)から5年を超えない期間
機構が加盟する個人情報情報機関を利用した日及び本契約又はその申込みの内容等	当該利用日から1年を超えない期間
官報の情報	破産手続き開始決定を受けた日から7年を超えない期間
登録情報に関する苦情を受け調査中である旨の情報	当該調査中の期間
本人確認資料の紛失・盗難等の本人申告の情報	本人から申告のあった日から5年を超えない期間

2. 私は、前項の個人情報が、その正確性・最新性維持、苦情処理、個人情報情報機関による加盟会員に対する規則遵守状況のモニタリング等、個人情報の保護と適正な利用の確保のために必要な範囲内において、個人情報情報機関及びその加盟会員によって相互に提供又は利用されることに同意します。

3. 前2項に規定する個人情報情報機関は次のとおりです。各機関の加盟資格、会員名等は各機関のホームページに掲載されております。なお、個人情報情報機関に登録されている情報の開示は、各機関で行います(機構ではできません)

①機構が加盟する個人情報情報機関：全国銀行個人情報センター <https://www.zenginkyo.or.jp/pcc/>

②同機関と提携する個人情報情報機関

・(株)日本信用情報機構 <https://www.jicc.co.jp> ・(株)シー・アイ・シー <https://www.cic.co.jp>

(代位弁済後の情報提供について)

4. 私は、機構に対し、私が保証委託契約を締結した委託先から機構が代位弁済後の完済等の情報を取得し、これを個人情報情報機関に提供することを依頼し、その情報が個人情報情報機関に登録されることに同意します。

左記の個人情報情報機関では、本書面の書き方を含め奨学金に関するご質問にはお答えできません。

ご記入いただいた情報及びあなたの奨学金に関する情報は、奨学金貸与業務(返還業務を含む)のために利用されます。この利用目的の適正な範囲内において、当該情報(奨学金の返還状況に関する情報を含む)が、学校、金融機関、文部科学省及び業務委託先に必要に応じて提供されますが、その他の目的には利用されません。機関保証加入者については、機構が保有する個人情報のうち保証管理に必要な情報が保証機関に提供されます。また、行政機関及び公益法人等から奨学金の重複受給の防止等のために照会があった場合は、適正な範囲内においてあなたの情報が提供されます。

確認書兼同意書は本人控としてコピーを取り、返還誓約書を提出するまで大切に保管してください。

学校番号

□□□□□□□□□□

【用紙③】確認書兼個人情報取扱いに関する同意書

1. 奨学金の貸与に係る事項

- 【返還方式】
(1) 第一種奨学金においては、貸与金額に応じた返還回数で算出された割賦金で返還する方式(以下、「定額返還方式」という)か、独立行政法人日本学生支援機構(以下、「機構」という)が取入に連動して算出した割賦金で返還する方式(以下、「所得連動返還方式」という)を選択する必要があります。
(2) 所得連動返還方式を選択したものは、個人番号等機構の指定する書類を提出しない等所定の手続きを怠った場合は、貸与金額に応じた返還回数で割賦金が算出されることができません。
(3) 返還方式の変更を希望する際は機構に願出する必要があります。

- 【保証】
(4) 奨学金の貸与を受けるためには、一定の保証料を支払うことで保証機関による連帯保証(機関保証)を受けるか、連帯保証人及び保証人を選任し、人的保証を受けることが必要です。
(5) 機関保証を選択した場合は、奨学金の貸与終了後において奨学生本人と確定した連絡先を提出し、機構の求めに応じてその連絡先情報を提供する者を選任し、その者の氏名、住所等を本人以外の連絡先として届け出なければなりません。
(6) 奨学金申込み時に連帯保証人及び保証人を選任し、貸与中に連帯保証人又は保証人が死亡した場合は、機関保証制度への変更を申し出ることができます。

- 【返還誓約書(兼個人情報取扱いに関する同意書)】
(5) 機関保証を選択した奨学生は在学学校長を経て、機構が定める期限までに機関保証を受けたことを表示した返還誓約書及び保証依頼書(兼保証委託契約書)・保証料支払依頼書を提出しなければなりません。
(6) 個人保証を選択した奨学生は在学学校長を経て、機構が定める期限までに連帯保証人及び保証人と連署の上押印した返還誓約書を提出しなければなりません。
(7) 連帯保証人は、本人が未成年者の場合は親権者又は未成年後見人、本人が成年者の場合は独立の生計を営む者であって、原則として、奨学生との4親等以内(父母を除く)の親族と受けなければならないものとします。

- 【貸与期間の取扱い】
(8) 過去に貸与を受けた者が新たに貸与を受ける期間は、下記の学校区分(それぞれ学校の専攻科・大学における別科・専修学校専門課程修了を入学資格の要件としている専攻科・専修学校専門課程は、それぞれ異なる学校区分とみなす)において現在在学する学校と同じ区分に属する学校で過去に貸与を受けた期間と通算して現在在学する学校の修業年限(修業年限を定めない学校にあっては、貸与を受けた者に必要となる最短期間)に達するまでの期間とします。
(9) 第一種奨学金の長期履修課程に在学する者の貸与最終期は、通常の課程における標準修業年限の終期までとします。

- 【申込資格】
(10) 奨学金の貸与を受けることができる学生等は、日本国籍を持つ者か、外国籍の者のうち次のいずれかに該当する者とします。
(11) 日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法(平成3年法律第71号)第3条の規定による法定特別永住者として本邦に在留する者
(12) 出入国管理及び難民認定法(昭和26年政令第319号)別表第2の永住者、日本人の配偶者等又は永住者の配偶者等の在留資格をもって本邦に在留する者
(13) 同条の定住者の在留資格をもって本邦に在留する者若しくは永住者の配偶者等に準ずると当該者が在学する学校の長が認めたもの

- 【振込み】
(14) 奨学金は、普通銀行(外国銀行を除く)、ゆうちょ銀行、信用金庫、労働金庫又は信用組合のいずれかに開設された本人名義の預貯金口座に振り込まれます。
(15) 奨学金は毎月1月分ずつ交付します。ただし、特別の事情があるときは、2月分以上を合わせて交付することがあります。
(16) 入学時特別増額貸与奨学金は、入学年を始期として基本月額額を振込先として設けられた奨学生名義の預貯金口座に振り込まれます。

- 【月額の変更】
(17) 貸与月額は、機構が定める手続きにより変更することができます。
【利率の算定方法】
(18) 第一種奨学金に併せて入学時特別増額貸与奨学金を受けた者の利率、第二種奨学金における基本月額に係る利率の算定方法の選択に関しては、「利率固定方式」又は「利率見直し方式」のうちインターネットにより入力した方法、又は「奨学金申込書」に記載した方法に従って以下のとおり定められます。
(19) 「利率固定方式」は、貸与終了時に、奨学金の交付に充てた資金の借換えに充てる固定利率の財政融資資金(以下、「財財」という)の利率に基づき機構が定めた利率が返還完了まで適用されます。
(20) 「利率見直し方式」は、貸与終了時は、奨学金の交付に充てた資金の借換えに充てる5年利率見直しの財財の利率に基づき機構が定めた利率が適用されます。
(21) 第二種奨学金において入学時特別増額貸与奨学金を受けた場合の利率は、基本月額に係る利率と入学時特別増額貸与奨学金又は増額月額に係る利率を加重平均して決定します。
(22) 第二種奨学金における基本月額に係る利率は「利率固定方式」又は「利率見直し方式」に従って算定し、入学時特別増額貸与奨学金並びに増額月額に係る利率は「利率固定方式」又は「利率見直し方式」により算定した利率に基づき機構が定める利率とします。
(23) 第二種奨学金における利率の算定方法の変更は、奨学金の交付期間中、機構が定める一定期間内に行うことができます。

- 【貸与中の手続き等】
(17) 奨学生は在学学校長あてに毎年度「奨学金継続願」を提出し、継続貸与の適格認定を受けなければなりません。
(18) 奨学生は次の場合、速やかに在学学校長を経て機構に届け出なければなりません。
(19) 休学、復学、転学、編入学、留学(休学)又は退学したとき。
(20) 本人の変更があったとき、本人又は本人以外の連絡先を変更するとき。
(21) 本人が死亡したとき、又は相続人又は連帯保証人は直ちに死亡した旨を機構に届け出なければなりません。
(22) 本人が死亡したとき、又は精神もしくは身体の障害によって、その奨学金を返還することができなくなったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。
(23) 本人が死亡したとき、又は精神もしくは身体の障害によって、その奨学金を返還することができなくなったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。
(24) 本人が死亡したとき、又は精神もしくは身体の障害によって、その奨学金を返還することができなくなったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。
(25) 本人が死亡したとき、又は精神もしくは身体の障害によって、その奨学金を返還することができなくなったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。

2. 奨学金の返還に係る事項

- 【返還の方法】
(1) 奨学金の返還は、貸与が終了した月の翌月から起算して6月を経過した後開始されます。
(2) 返還方式が定額返還方式の奨学生は、返還誓約書において月額返還又は月賦・半年賦併用返還のいずれかの返還方法を選択することになります。
(3) 返還方式が定額返還方式の場合は、20年(月賦返還で240回)以内に返還しなければなりません。
(4) 返還方式が所得連動返還方式の奨学生の返還方法は月賦返還になります。
(5) 月賦返還以外の返還方法を選択していた場合、返還方法は月賦返還に変更されます。
(6) 返還期日前に、貸与された奨学金の全部又は一部を繰り上げて返還することができます。
(7) 本人、連帯保証人又は保証人が、割賦金の返還を滞滞したときは、支払督促の申立から強制執行までの法的手続きを行うことがあります。
(8) 本人が債務(貸与を受けた総額、利息、滞滞金及び督促手数料)の負担にかかった費用は債務者(本人、連帯保証人又は保証人)の負担となります。
(9) 口座振替(リレー口座)による返還が適当でない場合、機構が判断した場合は、機構の指定する方法により返還するものとします。
(10) 返金に要する手数料を除いた返還過剰金が100円未満の場合は、学生支援寄附金として振り替えます。
(11) 本人、連帯保証人及び保証人から返還期日を過ぎても返還がない場合、又は所定の手続きを怠った場合には、機構が委託した債権回収会社等から呆電及び督促を行います。
(12) 本確認書兼同意書に基づく奨学金貸与に関する紛争について、機構の本部所在地を管轄する裁判所が第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

- 【その他手続き等】
(13) 奨学金の貸与終了後、連帯保証人、保証人又は本人以外の連絡先を変更するときは速やかに機構に届け出なければなりません。
(14) 本人、連帯保証人、保証人及び本人以外の連絡先について、住所・氏名・電話番号等に変更があったときは、速やかに機構に届け出なければなりません。
(15) 本人が災害・傷病・経済困難・失業など返還できない事情が生じたときは、願出により減額返還(1回当たりの割賦金を2分の1又は3分の1に減額)し、適用期間に応じた分の返還期間を延長して返還する方法をいう)を適用することができます。
(16) 本人が災害・傷病・経済困難・失業など返還できない事情が生じたとき、あるいは国内外の学校に在学する場合には、願出により返還の期限を猶予することができます。
(17) 本人が死亡したときは、相続人又は連帯保証人は直ちに死亡した旨を機構に届け出なければなりません。
(18) 本人が死亡したとき、又は精神もしくは身体の障害によって、その奨学金を返還することができなくなったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。
(19) 本人が死亡したとき、又は精神もしくは身体の障害によって、その奨学金を返還することができなくなったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。
(20) 本人が死亡したとき、又は精神もしくは身体の障害によって、その奨学金を返還することができなくなったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。
(21) 本人が死亡したとき、又は精神もしくは身体の障害によって、その奨学金を返還することができなくなったときは、願出により返還未済額の全部又は一部の返還を免除することがあります。

3. 採用されなかった場合等の確認書兼同意書の取扱いに係る事項

- 申込後採用されなかった場合、採用取消になった場合、貸与を受ける前に辞退した場合、この確認書兼同意書は無効となります。
(1) 申込後採用されなかった場合、採用取消になった場合、貸与を受ける前に辞退した場合、この確認書兼同意書は無効となります。
(2) 申込後採用されなかった場合、採用取消になった場合、貸与を受ける前に辞退した場合、この確認書兼同意書は無効となります。